

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	春日井市第二希望の家				公表日	7年 12月 24日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・定員以内の利用のため、スペースが十分確保できている。人数が多い時は、必要に応じてパーティション等を活用し、環境設定を行っている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・基準以上の加配加算の対象となる職員配置を行っている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・幼児室内はほぼバリアフリー化している。 ・トイレはバリアフリー化されていないため、スリッパを履くよう声掛けする等状況に合わせて対応している。 ・個別のマーク、スケジュール表等を活用し、本人にわかりやすく示すことができるよう工夫している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・床面に関しては年2回専門業者による薬剤洗浄を行っている。 ・共有部分の次亜塩素酸での消毒、おもちゃのアルコール消毒、玄関から幼児室まで絨毯マットを敷く等衛生管理を徹底している。 ・子どもが集中しやすい環境になるよう、布で備品を見えなくする等工夫している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・使用できる個別の部屋があり、使用予定も共有されているため、使用しやすい環境が整っている。	・別室が空いていない時もあり、個別の対応が必要な時の環境設定や部屋の確保についての検討が必要である。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・日々の小ミーティング、定期的な検討会や幼児室ミーティングで情報共有、支援方法の共有等を図っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・保護者向け評価表、年1回の保護者会、定期面談、個別の相談、個別支援計画書の説明でニーズの聞き取りや情報提供を行っている。	・今後もニーズを聞き取り、改善できる点を検討していく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・日々の小ミーティング、定期的な検討会や幼児室ミーティングで意見等を共有し、業務改善に繋げている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	・第三者評価は行っていない。	・今後も必要に応じて、関係機関と連携を取りながら、業務改善に繋げていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・定期的に研修の案内があり、受講しやすい環境が整っている。 ・今年度は、「支援者研修」、「子どもの権利に関する研修」を施設で企画・実施した。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・ホームページで公表している。 ・契約時に支援プログラムを配付している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		・定期面談、個別面談等目標の達成度と今後取り組みたいことを保護者と確認し、計画書に反映できるようにしている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・個々に担当者を決め、一緒に児童発達支援計画書を作成している。 ・個別支援計画書の検討会を職員全員で実施し、意見を計画書に反映している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・個別支援計画書の検討会を職員全員で実施し、意見を計画書に反映している。 ・日々の小ミーティング等で情報共有し、個別支援計画書に沿ったサービス提供を心掛けている。	

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・独自のアセスメント表、遠城寺式・乳幼児分析的発達検査表を利用し、状況を把握している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・「児童発達支援ガイドライン」を踏まえた個別支援計画書を立案している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・児童発達支援管理責任者を中心に、職員間で話し合いながら立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・年間予定は同じだが、子どもたちの状況を把握しながら製作等新しいプログラムを取り入れ実践している。 ・繰り返しの経験で見通しがつき、参加できる活動もあるため、変わらない活動と変化する活動を組み合わせている。	・今後も、プログラム固定しないよう、新しい遊びを積極的に取り入れていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		・個別活動と集団活動を段階的にプログラムに取り入れている。 ・子どもの発達状況を踏まえた個別支援計画書作成に努めている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・当日の天候、参加人数、利用児の状況に応じて支援内容、当日の職員の動きを確認している。 ・準備が必要なことがあれば、開始前だけでなく、事前に打ち合わせを行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・支援終了後に支援の状況、気づいた点、保護者からの話等を共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・日々、ケース記録の記入、支援に関する情報共有を行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・定期的に保護者と面談を行い、個別支援計画書の達成度、今後取り組みたい内容の確認を行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・児童発達支援管理責任者と必要に応じて利用児の担当職員が参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・地域の保育園・幼稚園(就園先含む)、保健師、行政、計画相談事業所との連携を積極的に取り、情報共有している。 ・今年度は、医療機関での訓練場面を見学し、情報共有を行った。	・医療機関との連携体制を構築を検討していく必要がある。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・保護者から許可をいただいた上で、併行通園先への訪問、電話連絡で情報共有を図っている。訪問時には、個別支援計画書を提示し、事業所、併行通園先双方で行っている支援を共有している。	・双方が負担なく、定期的に情報共有ができる方法(訪問、電話連絡以外)の検討が必要である。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		○	・特別支援学校への見学会を毎年実施している。	・通園している利用児が2～4歳児が多く、学校への移行支援の実績が無い。今後、対象となる利用児が通園する場合は、就学先等関係機関と連携を取り、スムーズに移行できるよう努める。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				

	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		・地域の児童発達支援センターに見学に行き、療育場面の観察や情報交換を行った。 ・児童発達支援センター主催の研修会に参加した。	・スーパーバイズや助言等で相談した実績が無いため、今後、ケースに応じて相談を検討する。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		・特別支援学校幼稚部、小学部の見学会を実施した。 ・近隣の保育園の園庭開放に参加した。	・交流の機会が少ないため、今後、さらに機会の設定を検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・定期面談、個別相談の時間を設定し、相談できる環境を作っている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・親子通所。 ・保護者教室、ファミリーデーで家族向けの研修を実施している。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・契約時、利用開始前に説明している。 ・支援プログラムに関しては、契約時に本人支援の5領域を含めて説明している。	
保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・定期面談、個別相談の時間を設定し、家族の意向を確認する場を設定している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		・個別支援計画書は、保護者に説明し、署名で同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・定期面談、個別相談の時間を設定する他、保護者から要望があれば時間を設定し、随時相談できる環境を作っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		・年1回保護者会を開催している。 ・保護者ミーティングで、保護者同士が交流する時間を取っている。また、保護者教室でOBと交流する機会を設定している。 ・修了後も定期的にOB会を開催し、保護者同士が交流できる場を設定している。	・きょうだい事業所を見学する機会はあるが、きょうだい同士が交流する機会を設定していないため、今後検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・主に、児童発達支援管理責任者が相談を受けている。必要に応じて職員間で検討し、対応している。 ・施設内で解決できない場合は、他の機関と連携を図って対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		・毎月機関紙を発行し、行事の予定や情報提供を行うとともに、随時幼児室内のボードに連絡事項を記載し、周知している。 ・今年度より、連絡用アプリの導入とインスタグラムを開始した。月の予定等を発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・ケース記録等は事務室の施錠できる書庫で保管している。 ・保護者向けの書類は、個々のレターケースを設置し、個人情報の取り扱いに配慮している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・写真、絵カード、スケジュール表、実物等を使って分かりやすく示している。 ・保護者にも分かりやすい個別支援計画書の作成を心掛けている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		・今年度は、地域の方々、学生ボランティア等を招き、夏祭りを開催した。年1回、地域の方々と合同防災訓練を実施している。 ・年2回、地域の防災イベントに職員が参加している。 ・夏休みは、学生ボランティアを受け入れている。	
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・緊急時対応マニュアル、感染症マニュアル等を策定している。 ・安全計画に基づき、避難訓練を毎月実施している。	・災害発生、不審者対応を想定した職員研修を検討する必要がある。



非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		<ul style="list-style-type: none"><li>・業務継続計画(BCP)を策定している。</li><li>・安全計画に基づき、避難訓練を毎月実施している。</li></ul>	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"><li>・契約時の調査票、アセスメント時に保護者から聞き取りを行っている。</li><li>・健康管理チェック表で日々の体調について確認を行っている。</li><li>・手洗い、緊急時の対応（頭をぶつけた時）を想定した研修を行った。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・安全計画に基づいて、緊急時の対応がスムーズにできるよう研修を実施する。</li></ul>
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		<ul style="list-style-type: none"><li>・医師の指示書は無いが、親子通所のため、事前の聞き取りと随時保護者に聞き取りしながら対応している。</li></ul>	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		<ul style="list-style-type: none"><li>・安全計画を作成し、計画を基に管理、訓練、研修を実施している。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・現状以外に必要な訓練や研修を今後も検討、実施していく。</li></ul>
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"><li>・幼児室内に設置している。</li><li>・毎月の機関紙に、安全計画の内容を記載している。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・より効果的な周知方法を検討していく。</li></ul>
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		<ul style="list-style-type: none"><li>・法人内で事例を共有し、事故の未然防止に努めている。ヒヤリハットがあれば必ず児童発達支援管理責任者が報告を受け、職員間で確認している。</li></ul>	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		<ul style="list-style-type: none"><li>・虐待防止委員会を設置している。</li><li>・定期的に虐待研修に参加し、職員間で情報の共有を図っている。</li></ul>	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"><li>・身体拘束適正化委員会を設置している。</li><li>・身体拘束を行う可能性がある場合には、面談等で保護者に相談し、個別支援計画書に記載している。</li></ul>	